

2020/11/3

(うとQ世話し 密かに思っている事)

多様性と言ったら多様性方向ばかり。

DX(Digital transformation=デジタル技術を使った大変革)と言ったらDX方向ばかり。

多様性と言いだしたら一様性を敢えて宛がって暴走を抑えたり、DXと言いだしたらこれまた敢えてアナログの人海戦術を組み合わせ引き戻しを図ったりするといったような偏(かたより)抑制機能が全く働かない。

それではまずかろうと、意図してその反対方向を持ち出すと「KY(空気読めない)」と村八分扱いになったり「流れを乱すもの」のレッテルを張られ疎外されたり「異質、変人」と白い目を向けられたりする。

早い話が「井戸端会議でのひそひそ話」

で、そのいい例が以前の記事でもお話ししました今コロナ禍でのわが国民性に由来する「自粛警察」「マスク警察」「品行方正警察」の話題持ち出しと正確無比なるその監視実行等など。確かに世の中には100%永続的に同一同方向に向かい続ける事はないので、いずれは反対方向に向かい始めるのですが、余りに一方向への力が強すぎると反転するまでに多大な時間を要し、その分不具合の修正を行うのに手間取るので、改革や改善が大幅に遅れて遅々として進まないことになります。

自分はわが国の改革の遅れの原因が、この「無言の同調圧力に屈しない異端(辺境)インテリジェンスを受容できない不寛容さ(そのマイナス面を我々は「規律正しき連帯感とそれを実現している民度の高さ」というプラス面だと勘違いしている)」にあると密かに思っております。

メディア記事を見ている限り上述の「多様性」も「DX」もそれを言えば「今売れる」から口にしていただけであって、到底深く考えている様には思えないので、それを連続的に目の当たりにすると思わずこんな風に毒づきたくってしまいます。

「あっ、またぞろやっている。いい加減懲りないね、このお歴々は」

夫またまた話がそれてしまいました。

それにしても、なぜ「こういった事(集団同調圧力)」が、起きるのか？

それは自分の観察するところによれば、偏(ひとえ)に

「恥への恐怖」故。

耳の根元まで赤らむような恥を搔く事への恐怖。

お互い同士の監視、採点評価目線の前で密かに且つこっそりと、しかし残酷極まりないほど問答無用の峻烈さを以て瞬時にダメ出しをされてしまう事への恐怖。

その故からだと、これまた密かに思っている次第でございます。